

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

在宅医療の進展とともに、一般家庭からも点滴バッグや注射器等の廃棄物が排出されるようになってきている。しかしながら、それらの処理実態については、体系的な調査が十分実施されていないのが現状である。

そこで、本調査では平成15年度から在宅医療廃棄物の処理の在り方について検討を行っており、15年度調査では患者団体、メーカーへのヒアリング調査、医師会等の関係団体、医療機関、市町村等へのアンケート調査を行い、一般家庭から排出される糖尿病用自己注射、自己腹膜透析等の在宅医療廃棄物の排出・処理状況、市町村（特別区を含む、以下同じ）における排出方法の指導の有無等についての調査を行い、現状を把握した。

16年度は、これらの現状を踏まえて、15年度に実施したアンケート調査等を通じて把握できた先進的事例を対象に、取組内容や現在抱えている問題点等について、詳細な調査を行い、在宅医療から排出される廃棄物の処理の在り方についての検討を行う。

2. 検討内容

(1) 在宅医療の現状及び在宅医療から排出される廃棄物に関する調査

在宅医療器材の種類及び製造量の実態把握

- 在宅医療器材の種類及び製造の実績や今後の見通し、在宅医療廃棄物の取り組みについて、在宅医療用具メーカー（以下「メーカー」という）等へのヒアリングを通じ把握する。

在宅医療廃棄物の処理の実態把握

- 在宅医療廃棄物の排出の実態、問題点について、患者団体にヒアリング調査を行い、把握する。
- 在宅医療廃棄物の処理について、医師会、医療機関、薬剤師会、訪問看護ステーションに対して、アンケート調査等を実施し、実態を把握する。
- 市町村における受け入れ状況について、アンケート調査により、問題点等を整理する。

(2) 有識者からなる検討会の意見等を踏まえ、在宅医療廃棄物の取扱方法に係る検討を行う。

医療機関による回収^{注)}について

平成15年度のアンケート調査等をもとに、医療機関における具体的な回収状況についてヒアリング調査を行い把握する。

注)「回収」とは、本報告書において、法的な義務とは別に、患者・家族から在宅医療廃棄物を受け取ることをいう。以下、同じ。

薬剤師会等による取組事例について

平成 15 年度のアンケート調査等をもとに、薬剤師会及び薬局における具体的な取組事例についてヒアリング調査を行い把握する。

訪問看護ステーションによる回収について

平成 15 年度のアンケート調査結果、在宅医療廃棄物の回収が行われている訪問看護ステーションについてヒアリング調査を行い、具体的な回収状況及び問題点等を把握する。

市町村における受入状況について

平成 15 年度のアンケート調査等をもとに、市町村における受入状況の詳細をヒアリング調査し、問題点を整理する。

公正競争規約に関するヒアリング調査について

公正競争規約に関し、医療用医薬品、医療用具関連のメーカーで構成する公正取引協議会の考え方について、ヒアリング調査を行う。

(3) 文献調査について

上記 (1) に関連する文献調査を実施する。

(4) 在宅医療廃棄物の処理の在り方の検討

在宅医療廃棄物の処理について、廃棄物の種類ごとに取扱いを明確にし、また、具体的なシステムを検討するため、検討会を平成 15 年度、16 年度に各 3 回開催する。

(5) 以上について、調査対象報告書を取りまとめる。

(6) 在宅医療廃棄物の処理の在り方検討会委員名簿

(敬称略、平成16年度検討会の五十音順)

氏名	所属
山本 亮(平成15年度) 岩月 進(平成16年度)	(社)日本薬剤師会 常務理事
庄司 元(平成15年度) 梅澤 勝利(平成16年度)	(社)全国都市清掃会議 調査部 部長 (社)全国都市清掃会議 総務部 部長
近藤 和義	川崎市 環境局生活環境部 廃棄物指導課 課長
鈴木 聰男	(社)東京都医師会 副会長
酢屋 ユリ子	北里大学病院 事務部環境整備課 課長
羽生田 俊(平成15年度) 田島 知行(平成16年度)	(社)日本医師会 常任理事
谷村 典孝	麻生鉱山(株) 事業統括部長
中村 定敏	(社)全日本病院協会 常任理事
廣瀬 千也子	(社)日本看護協会 常任理事
宮崎 元伸	福岡大学 医学部衛生学教室 助教授
山本 章博	日本医療機器関係団体協議会 環境問題委員長

： 座長

事務局： (財)日本産業廃棄物処理振興センター